



2011年12月4日

# いま起きつつあること…



福島第一原発から24kmのところ  
に日本基督教団原町教会（聖愛保育園併設）があります。現在原発から最も近いところで主日礼拝をささげている教会でもあります。今回のかから版は、原町教会の朴貞蓮（ソノダマ）牧師からのお便りを紹介します。

## 祈りに支えられて

皆様、いかがお過ごしでしょうか。目を上げると空はすっかり秋模様になっていて季節の巡りを感じます。秋の空がこんなにも蒼く、しろい雲がいつもより映えて見える

ことを改めて知りました。美しいばかりの秋空と見えますが、一端視線を下に向けますと、そこにはまだ地震・津波の爪痕や原発事故によって変わり果てた光景が鋭利な刃物のように胸に刺さります。

原町教会は皆様のお祈りに支えられ、毎週礼拝を守っています。礼拝は平均20名ほどとなり、出席人数は前年度並みとなりました。しかし、外から応援に来てくれるお客さんの人数もかなり入っています。9月10日（土）は原町にいる子どもたちに何か楽しみなことができないかと思いい、教会主催で「夕涼み会」を行いました。他の園の子どもたちも遊びに来てくれたり、地域の方々も久しぶりにここで子どもたちの笑い声が聞けると楽しみに来てくれたりして盛況に終えることができました。教会の婦人会はフードコーナーのために朝早くから労

してきて、保育園の先生たち

ちは保育をしながら時間を割いて準備に力を尽くしてくれました。教会がこれからもこの地域のために祈りつつ、希望の種として生き続けられるようお祈りください。

また、教会員の中には癌のため手術を控えている人や癌の手術を受けて間もない人たちもおり、一人一人の健康を祈っています。散らされている教会員、避難を強いられる共に暮らすことのできない教会員の家庭が主によって守られるようにとお祈りください。

## ようやく行えた 保育園の卒園式

保育園では10月9日（日）、礼拝後1時30分から2010年度の卒園式を礼拝堂で行いました。小学校で1学期を過ごした子どもたちはすっかり成長していて保育園の卒園式とは思えない落ち着きがあり、異常な状況に置かれてしまった子どもたちに切なさを感じ

ました。

24名の卒園児の内、19名が出席しました。中国やアメリカに帰国した子どもたちは夏休みの時期でないため来ることができませんでした。中には原町に入ることを心配した親御さんの判断で参加できなかった子どももいます。卒園児のほとんどが避難中のため、卒園式と祝会の後はお互いお別れを惜しみなかなか帰ろうとしませんでした。わたしには初めて顔を合わせる子どもたちの卒園式なので泣かないだろうと思っていましたが、泣いてしまいました。

## ボランティアに 支えられた除洗

卒園式に先立って9月30日（金）の夕方、正式に緊急時避難準備区域の指定が解除されました。それに伴い原町の保育園再開も可能となりました。指定解除については7月か



2011年12月4日

# いま起きつつあること…

ら既に検討していることを知っていましたので、今か今かと待っていました。解除の日を待ちながらも安全・安心にはまだ程遠い状況なので複雑な思いでいました。ついに解除となり、10月11日に原町での保育園の再開を迎えました。除染のために頑張ったこと、たくさんの方々のおかげでできたことを思い出します。

同じ敷地内にある教会も除染を行わなければならないため教会員の方にも無理を強いてしまいました。目白教会の青年たち、カンパウンド長老会の牧師たちのボランティアに支えられ教会の除染も何とか行うことができました。30km圏内ということで、ボランティアをお願いしながらも申し訳ない気持ちでいました。実際、東北教区からはボランティア活動をするに安全ではないためと断れてしまいましたので、より一層来てくださった方々や送り出してく

## 表土の除洗以外は 自腹で

ださったご家族の皆さん、諸教会には言い尽くし得ない感謝の気持ちでいっぱいです。ボランティアは断られても仕方がないことだと諦め半分でお願したのですが、いざ断れると何日間かは落ち込みました。

ところで、除染の結果は場所によって様々ですが、礼拝堂はお陰様で0.1 $\mu$ Sv/h台に下がりました。園庭も表土を剥いでやつと空間線量が0.1 $\mu$ Sv/h台になりました。剥いだばかりで埃が舞いやすくなりましたので、部分的に新たに芝生を植えることにしました。お部屋もすべて0.1 $\mu$ Sv/h台まで下がりました。これを維持するためには重ねて除染を行うしかありませんので、本当に気が遠くなります。市では除染への積極的な呼びかけをしていますが、必要

経費に関しては前向きな返事をしてくれません。表土を剥ぐこと以外はすべて自腹です。問い合わせた園の職員も引き下がれず粘って見ましたが、結果は変わりませんでした。市の職員の返事は、当初の方針では民間には表土を剥ぐことにかかった費用の半分しか補助しないとされていたのが、市議会でも新たに討議されてこられました。こちら側の乱暴な受け止め方も知れませんが、支出するはずだった半分の浮いたのだからそれでコンクリートの除染に当てれば良いということでした。『そんなバカな!』

## 大きな課題を 抱えての保育

10月11日、再開時の園児は35名です。現在は39名となりました。その内8名は30km圏外で保育を行っていた時、定員オーバーで自分たちの地域の

の保育園に入れなかった子どもたちです。空く次第転園する子どもたちです。原町での再開に当たり休業中の9名の職員に復職を呼びかけたところ6名が退職願いを出し、3名が戻ることになりました。それで職員は12名となりました。

◆ 今後の課題としては神さまが造られた自然の中で、自然と共に生きることをモットーにしてきた自分たちの保育が今まで通りにはいかななくなってしまうのでどういう風に保育を展開していくのが最大な課題となりました。子どもたちの成長と健康のために知恵を絞りだし、話し合いを重ねているところです。引き続き子どもたち、先生たちの健康もお祈りの内にお覚えくださると力づけられます。

◆ 皆様と御教会の上に主の祝福が豊かにありますようお願いいたします。